

令和元年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立米子白鳳高等学校
学校長 松田 敏男

評 価 日	令和 2 年 1 月 2 5 日 (土)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒の割合が多いが、地に足のついた学校生活を送っている。それは、教員研修の充実や、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携、特別支援教育支援員、白鳳サポーターの配置など、生徒一人一人を大切にした教育が実践されているからであろう。 ・和傘作りや銭太鼓、地元保育園との連携や彼岸花の植栽など、地域と連携した体験的学習が多く、生徒の成長にもつながっている。 <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数も増え、学校に活気も出てきた。年々学校が変容してきている。単年度の評価だけでなく長期的な見方も必要である。 ・授業など学校の取り組みをマスコミなどを通して外部に発信することにより、学校の状況を理解してもらえらる。 <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会では学年が上がるごとに成長の様子が見えた。体験的に学び、その活動を表現活動や発表に繋げ、アウトプットすることで、自尊感情の高まりにもつながっていると感じた。 ・銭太鼓は演技がそろっていてとてもよかった。傘踊りも少ない人数だったがびったり息があっており感動した。地域の人を講師として、多様な科目を実施することで生徒の意欲が向上したり、学校生活を前向きに取り組むことができる。まさしく地域に育ててもらっているということだろう。 <p>3. 取組改善のための提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を見放さず、気づきや学びの体験をこれからも大切にしてもらいたい。また、いろいろな人と関わり支えてもらうことがきっかけになり、生徒は成長を遂げることもある。地域との連携を引き続き行って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間での情報共有を密にし、また、外部機関ともより連携を強化していき生徒支援にあたりたい。 ・今後とも地域と連携した体験的交流活動を通して、「社会的な自立に向けた支援」に取り組みたい。 ・地域との関わりをより膨らませた内容を学校目標に入れていきたい。地域の方にもより能動的に学校運営に関わってもらいたいと考えている。 ・今後も学校裁量予算を有効に活用し生徒にとって興味、関心が持てる体験的学習に継続して取り組みたい。また、このような取り組みの機会を捉え、生徒の学校生活の充実や、一人一人の課題解決、成長につなげていきたい。 ・コミュニティ・スクールの導入など、今後も開かれた学校づくりを目指していきたい。 	